

かぼちゃ

—— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名 | 月 | | | | | | | | | | | |
|---------|---|---|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 普通 | | | ● | ▲ | | | | | | | | |
| | | | は種 | 定植 | | | | | 収穫 | | | |
| 疫病 | | | | | | —— | —— | —— | | | | |
| うどんこ病 | | | | | | —— | —— | —— | | | | |
| べと病 | | | | | | —— | —— | —— | | | | |
| アブラムシ | | | | | | —— | —— | —— | | | | |
| ハマダニ | | | | | | —— | —— | —— | | | | |

疫病

留意事項

- 1 比較的高温（気温28～30℃）多雨で発生が多い。
- 2 ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤は、かぶれやすいので注意する。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、2回以内なので注意する。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 床土は、新しいものを使う。
- 3 定植時、株元を高くして浸冠水を避け、排水に努める。
- 4 わらやポリフィルムでマルチングする。わらは、なるべく厚くし、うね間につるや果実が落ちないようにする。
- 5 肥料切れしないように肥培管理に注意する。
- 6 ウリハムシ、コオロギなどの加害部から発病することが多いので、これらの防除を徹底する。
- 7 被害株を早めに抜きとり、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 8 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) M3 【600倍 21日／2回】
- 9 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [リドミルゴールドMZ](#) M3 4 【1000倍 30日／2回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) 2 1 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) M5 40 【1000倍 7日／3回】

うどんこ病

防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 窒素質肥料の多用を避ける。
- 2 高温乾燥時に発病しやすい。また、生育後半に発病しやすい。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1000～2000倍 7日／4回】
 - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 7日／3回】
 - ・ [フルピカフロアブル](#) 9 【2000～3000倍 前日／4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) 3 【3000～5000倍 前日／5回】
 - ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [プロパティフロアブル](#) 50 【3000倍 前日／2回】

べと病

留意事項

- 1 高温多湿を好み、露地栽培では雨が続くと多発する。
- 2 ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤は、かぶれやすいので注意する。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、2回以内なので注意する。

防除方法

- 1 降雨やかん水の際の水の跳ね上がりによって蔓延するので、敷きわらやポリフィルムでマルチングを行う。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) M3 【600倍 21日／2回】
 - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 7日／3回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [リドミルゴールドMZ](#) M3 4 【1000倍 30日／2回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) 21 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) M5 40 【1000倍 7日／3回】

モザイク病

留意事項

- 1 生育初期の感染による被害が大きい。
- 2 主なウイルスはキュウリモザイクウイルス（CMV）とズッキーニ黄斑モザイクウイルス（ZYMV）である。
- 3 汁液でも伝染する。

防除方法

- 1 苗床は寒冷しゃで被覆し、アブラムシ類の侵入を防ぐ。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 アブラムシ類の防除に努める。(アブラムシ類の項参照)
- 3 被害株は抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 スタークル粒剤・顆粒水溶剤とアルバリン粒剤・顆粒水溶剤は、同一成分ジノテフランを含む農薬であり、成分の総使用回数は合計3回以内（但し、定植時の土壌混和及び育苗トレイへのかん注は合計1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) **4 A** 【1～2g/株 植穴処理土壌混和 定植時/1回】
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) **4 A** 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) **3 A** 【2000～3000倍 前日/5回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) **9 B** 【4000倍 前日/3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) **劇 4 A** 【2000～4000倍 前日/2回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) **4 A** 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [ウララDF](#) **2 9** 【2000～4000倍 7日/2回】

ハダニ類

留意事項

- 1 高温時に発生が多い。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モベントフロアブル](#) **2 3** 【2000倍 7日/3回】
 - ・ [ニッソラン水和剤](#) **1 0 A** 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [カネマイトフロアブル](#) **2 0 B** 【1000倍 7日/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。